

第3・4学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

知識 及 び 技 能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常に使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 エ 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 カ 主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
	(2) 情報の扱い方に関する事項 ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報の関係について理解すること。 イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
	(3) 我が国の言語文化に関する事項 ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 エ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
A 話 す ・ 聞 く	ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。

思考力、判断力、表現力等	A 話す・聞く	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。
	B 書くこと	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を確認すること。 オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
	C 読むこと	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

3 内容の取り扱い

(1) 知識及び技能

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 自分の思考や感情を表すという言葉の働きを理解し、感想や意見を伝えたり共有したりするためには、適切な言葉によって表すことが大切であることに気付くことが求められている。中学年では、言語感覚の基礎を養わせるために、漢字仮名交じり文という日本語の表記の仕方に関心をもち、その利点に気付いて、読みやすい表記を考えながら書くことを指導する。
- 送り仮名については、一つ一つの具体的な語の送り仮名の指導をするだけでなく、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても指導する。
- ローマ字は生活の中で身近なものになっていることから、第3学年の事項とし、ローマ字を使った読み書きができるよう指導する。
- 国語辞典や漢字辞典の使い方を理解させるとともに、自分で調べる活動を積極的に取り入れ、習慣として定着するようにする。
- 主語と述語が照応することへの理解を深め、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係にも気を付けて、文の構成を理解させる。
- 指示する語句や接続する語句の役割を理解し、文章を書く様々な機会をとらえて文脈に沿って使わせる。
- 文章を記述する際、相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分けることや、文末表現に注意して書くようにさせる。
- 文章全体として何が書かれているのかを大づかみで捉えたり、登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら音読させる。なお、黙読を活用し、文章の内容の理解を深めるようにすることも重要である。

② 情報の扱い方に関する事項

- 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する「知識及び技能」の育成に向けて、今回の改定で新設された事項である。
- 第3，4学年では，理解や表現をする上で，考えがどのような理由や事例によって支えられているかを吟味することと，話や文章の全体を大づかみに捉えて中心(話や文章の中心的部分)を把握し，全体をより明確に捉えることが重要である。
- 情報を整理する際，観点を明確にして比較したり分類したりすること，必要な情報によって落としてはいけない語句を適切に捉えて書き留めること，文章や図表，グラフ，絵や写真を引用する場合はその部分をかぎ(「 」)でくくることが，著作権の尊重や保護のために出典(引用元の書物や典拠など)を示すことを十分留意して指導する。
- 辞書や事典を他教科等の調べる学習や日常生活の中でも積極的に利用できるように留意する。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 響きやリズムを体感できるような作品や親しみやすい作者の作品，代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりして，短歌や俳句の文語調に親しむことができるようにする。
- ことわざや慣用句，故事成語の意味を知り，日常生活で用いることができるようにする。
- 「へん」，「つくり」，「かんむり」，「あし」，「たれ」，「かまえ」，「によう」などの部首と他の部分とによって漢字が構成されることを理解させる。
- 多様な本や文章があることを知り，読書する本や文章の種類，分野，活用の方法など，自分の読書の幅を広げるとともに，疑問を解決したり新しい世界に触れて興味が広がったりする読書の楽しさを味わうことができるようにする。

(2) 思考力，判断力，表現力等

① A 話すこと・聞くこと

- 話題については，学校や家庭，地域のことなどで児童が興味や関心をもっている事柄の中から一つに絞って決めさせる。
- 話す内容を構成する際は，相手のことを踏まえて理由や事例を選び，伝えたいことの中心が聞き手に分かりやすくなるように，内容を明確にして構成するよう指導する。
- 話の中心を明確に捉えて，相手の親疎やその人数，目的や場の状況などを意識し，声の出し方や言葉遣い，抑揚，強弱，間の取り方，視線などに話し方を工夫することが重要である。
- 重要な語句は何か判断しながら聞いたり，聞いた後に話の内容を振り返ったりして必要な内容を記録すること，聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問すること，それらのことを基に自分の考えをまとめ，表現する際に役立たせる。
- 話し合いでは，司会や提案など，話し合いの規模に応じて児童一人一人がそれぞれの役割を果たす機会を設ける。また，互いの意見の共通点や相違点に着目し，一つの結論を出したり，自分の考えをまとめたりさせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

- | | |
|---|---------------------------------|
| ア | 説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。 |
| イ | 質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。 |
| ウ | 互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。 |

② B 書くこと

- 集めた材料を共通点や相違点に着目しながら比べたり，共通する性質に基づいて分けたりして，伝えたいことが明確になるように書く材料を整理させる。
- 書く文章の種類や特徴を踏まえ，段落と段落との関係に気を付けて文章の構成を考えることによって，自分の考えを明確にしていくことを重視し，「始め－中－終わり」などの文章構成も意識させる。

- 考えを支える理由を記述する際は、「なぜなら～」、「その理由は～」、「～ためである」などの表現を、事例(書き手の考えをより具体的に説明するために挙げられた事柄や内容)を記述する際は、「例えば～」、「事例を挙げると～」、「～などがそれに当たる」などの表現を用いることができるようにする。
- 間違いに気付いて直すことでよりよく伝わる文章になることを実感させるために、文章を読み返す習慣を身に付けさせる。
- 書いた文章を互いに読み、書こうとしたことが明確になっているかを観点として感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができるようにする。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
 イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。
 ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

③ C 読むこと

- 説明的な文章の読み取りでは、段落相互の関係(考えとその事例、結論とその理由といった関係)に着目しながら、書き手の考えがどのような理由や事例によって説明され具現化されているのかなどを、叙述を基に正確に捉えさせる。その捉えた文章の構造や内容を基に、必要な情報を見付けて要約(文章全体の内容を把握した上で、本文や自分の言葉を用いて文章の内容を短くまとめること)をさせる。
- 文学的な文章の読み取りでは、登場人物の気持ちを、行動や会話、地の文、境遇や性格などの複数の叙述を基に捉えさせる。また、情景を具体的に想像する際は、場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちと併せて考えていくことが重要である。
- 文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基にして自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えをもたせ、それを共有し一人一人の感じ方などの違いがあることに気付くようにする。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
 イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
 ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつよさに気付こうとしているとともに、幅広く読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。